

みんなで生き方を考えよう

道徳教育担当

絆、団結、協力、人情、規律、礼儀・・・

絆、団結、礼儀・・・いずれも高い道徳性を身に付けた人の行いにあてはまるようなこれらの言葉が日本人を讃える言葉として取り上げられ、賞賛を浴びたニュースを覚えていますか？

少し前になりますが、今年7月 JR 浦和駅で電車とホームの間に挟まれた女性を、利用客約40人が車両を押しつけて救出したというニュースが日本国内で報道されました。列車は8分遅れとなりましたが、救出後拍手喝采がおこったそうです。乗客らの自主的な救出劇は海外メディアも発信し、インターネット上では称賛の声が上がりました。翌日には南浦和駅が利用者に御礼のアナウンスを流し、心温まる雰囲気にも包まれたそうです。そしてこのニュースは世界中を駆けめぐり、「日本でしかあり得ない光景だ！」と世界各国のメディアが取り上げ、インターネット上でも、「久々にいい話。感動した」「ほのぼのした。日本人らしい」「みんな優しい。捨てたもんじゃない」「こんな話がたくさん続けばいいのに」「生まれ変わっても日本人になりたい」など称賛の声が相次いだのです。

そのなかのいくつかを紹介します。

米CNNテレビ「生死に関わる状況で、駅員と乗客が冷静に協力した。おそらく、日本だけで起こりうること」

♡イタリア：コリエーレ・デラ・セラ紙「イタリア人だったら眺めるだけだろう」

♪英：ガーディアン「(駅員や乗客が) 集団で、英雄的な行動を示した。」

◆韓国：朝鮮スポーツ紙「乗客が力を合わせて救助する感動の写真が話題になっている」

そのほかインターネット上では

「アメリカでもありえない。そだ皆写真を撮り始めるのが関の山だ。」

「日本人って本当に素晴らしい。僕は日本に行ったことがないけれど いつも健全な精神の持ち主だって事が解るよ。」

「知ってるかい？津波のあの悲劇があった時も彼らはパニックにならずにきちんと並んで物を買っていたんだよ。これが日本以外だったらすぐ暴動になっているところだ。」

このようなコメントがたくさん寄せられていました。

これこそまさに道徳的実践力が発揮された姿だと、同じ日本人として誇りに思うニュースでした。



道徳の時間の「授業力アップ」をめざして

そこに居合わせた人がためらうことなく協力できたということは、道徳性が身に付いてきていることの現れだとおもいます。その反面、いじめの問題など、道徳的心情が育まれていないと思われるようなニュースもあとをたちません。このような社会背景から道徳の教科化に向けて検討している文部科学省の有識者会議「道徳教育の充実する懇談会」は、11月11日、現在は正式教科ではない小中学校の「道徳の時間」を数値評価を行わない「特別な教科」に格上げし、検定教科書の使用を求める報告書案を公表しました。このように「道徳の授業」が重要視されています。では「道徳」とは何か。ひと言で言い表すことは難しいのですが、「道徳」とは「人と人との関係の中での望ましい生き方」を意味すると言われていています。『礼儀』『感謝』『思いやり』などの道徳的心情により、人は心の絆を深め、人間愛の精神に支えられて強く生きることができるのです。特に中学生の時期における「道徳性」の発達には、大きな可能性を秘めており、その後の発達の基礎となるという意味でも中学生のこの時期にしっかり「道徳性」を身に付け、道徳的実践力を育てることに力をそそぐことが求められます。本校では、第1号でもお伝えしましたとおり、昨年度に引き続き北九州市教育委員会の委嘱を受け、道徳教育推進の取り組みを行っており、道徳教育の充実のため教師一人一人の道徳時間における「授業力

アップ」を目指して日々研修等に励んでいます。11月8日には全職員で代教諭、金子教諭の授業を参観し校内研修を行いました。また2月14日には道徳の公開授業を行い本年度の道徳教育の成果を発表できればと思っております。保護者の方をはじめ多くの方々に参観していただければ幸いです。



校内研修での授業を紹介します

1年1組 代 教諭

今回のテーマ

「公德心・社会連帯」

※電車の中でのマナーやポイ捨てなどを資料に、公德心とは何かについて考えました。

また、田原校区まちづくり協議会、副会長の上村さんをゲストティーチャーとしてお招きし、地域のために尽力されているお話をしていただき、生徒達も興味深く聞いていました。ありがとうございました

1年5組 金子 教諭

今回のテーマ

「寛容の心」

※日本の中学校に通う外国人の女の子が書いた作文を資料に、「寛容の心」とは「もともとの心を広くするにはどうすればよいか」について考えました。

「胸の中の〈思い〉は見えない、けれど〈思いやり〉はだれにでも見える」という詩を紹介しました